

平成22年5月6日発行

会員各位

協会だよりー209(5月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

<トピックス>

- 第35回総会（平成22年4月26日）も終了して、今期活動に入りました。調査・技術委員会では月末までに、平成21年分の触媒資源化実績報告書の発行を目指しています。
- 今年度初回の月例会（一泊研修会）は7月23日（金）～24日（土）を利用し、日鉱金属㈱日立工場の見学をすることになりました。詳細は日鉱金属㈱様の協力により第一回運営委員会（5月21日（金）開催）で詰める予定です。



五月の近づく町田市のぼたん園にて（寒さも去り、やっと好天になりました）

- 一. 協会よりのお知らせ
- 二. 「実施済事項」
- 三. 「予定事項」
- 四. 経済産業省関係
- 五. 新規会員の紹介（㈱大島産業殿）
- 六. 第35回定期総会が終わって
- 七. 事務局より（五月度の予定）
- 八. OBからの近況報告（南極探検記）

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① 協会だよりー208（4月号）をメール&郵便で送信（4/1）
- ② 平成22年度委員就任会社へ会長よりの委嘱状発送（4/1）
運営委員会、調査・技術委員会、広報委員会の委員委嘱。
- ③ 会計監査
日時：4月6日（火）10:00～12:00
場所：太陽鉱工㈱会議室
出席：角谷監事、関山監事、牧会計、小林専務理事

議題：総会に向けて第34期決算承認

④ 第35期定期総会議案書・出欠表の発送(4/9)

⑤ 第35期定期総会及び懇親会

日時：4月26日(月) 16:00~19:30

場所：新日鉱グループ六本木クラブ

出席：25社。委任状提出会社：10社。

[予定事項]

① 第206回月例会打合せ会

日時：5月7日(金) 16:00~17:00

場所：触媒資源化協会事務局

② 平成22年度第一回運営委員会

日時：5月21日(金) 15:30~17:00

場所：堺化学工業(株)会議室

議題：第206回月例会(一泊研修会)の準備、他

2. 経済産業省(METI)関係 (化学課よりのメール連絡)

・4月13日「環境・エネルギー政策に関する国民対話」について

・4月16日 地球温暖化に係る中長期ロードマップ(環境大臣試案)に対する意見の募集について

3. 新規会員の紹介

エヌ・イーケムキャット(株)藤井様の紹介で平成22年4月28日より株式会社 大島産業殿が入会されました。以下に大島産業殿の簡単な紹介をいたします。会員各位よろしくお願ひ致します。

【株式会社 大島産業】

住 所：〒842-0031 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町2133番地口第一(本社)

TEL0952-53-4400 Fax0952-53-4404

代 表：代表取締役社長 大島 千尚

設 立：昭和52年1月27日

資本金：2000万円

担当者：大島 千尚氏

ISO14001の取得(収集運搬、中間処理、最終処分)平成14年

現在の事業：リサイクル処理施設(破砕・圧縮)による廃プラスチック類・紙くず・繊維くず・金属くずの破砕・圧縮資源化。食品廃棄物(返品・不良品・製造残渣)の飼料原料及び有機肥料原料化。サーマルリサイクル炉による熱源(蒸気)の製造。ダイオキシン対応焼却炉の運転。管理型最終処分場の運営。

資源化事業内容：佐賀県において産業廃棄物処理事業を総合的に展開。近い将来レアメタル焼成事業を新規事業として取組みたいと考えています。

[URL] :<http://dai1.com/oshima/>

4. 第35回定期総会が終わって

平成22年4月26日(月) 来賓に経済産業省製造産業局化学課課長補佐太田聡殿、係長今村真教殿に臨席願ひ16時より25社35名の出席(委任状提出10社)で開催されました。会場は新日鉱グループ・六本木クラブです。平成21年度事業報告、会計決算報告、会則の改正、平成22年度事業計画、会計予算等の審議・決済が無事終了いたしました。今年度は協会設立から

35年の節目に当たり、11月に創立35周年記念祝賀会を行うことになりました。また役員・委員の改選期に当たるため、次の方々が役員・委員になりました。任期は2年間です。以下にご紹介いたします(敬称略)。青字は当日欠席の方々に、代理出席の方はお名前を紹介しました。

【役員】

- 会長 大井 滋 (日鉱金属株)
- 副会長 細田 顕治 (松田産業株)
- 副会長 宮崎隆史 (株徳力本店)
- 会計 牧 恵子 (太陽鉱工株)
- 理事 武田有司 (石福金属興業株)
- 理事 水野光男 (アジア物性材料株)
- 理事 尾沼 涼 (ジョンソン・マッセイ)
- 監事 角谷敏男 (田中貴金属工業株)
- 監事 関山新治 (小島化学薬品株)



役員会役員

【運営委員会】

- 委員長 武田有司 (石福金属興業株)
- 委員 河野照男 (日本無機化学工業株)
- 委員 佐藤邦彦 (日誠金属株)
- 委員 高野 泉 (日揮触媒化成株)
- 代理出席 水澤浩二殿
- 委員 新崎俊光 (堺化学工業株)
- 代理出席 大隈崇靖殿
- 委員 泉谷英史 (新興化学工業株)



運営委員会



調査・技術委員会

【調査・技術委員会】

- 委員長 水野光男 (アジア物性材料株)
- 委員 堀内照弘 (キンキメタル産業株)
- 委員 伊達晋介 (アサヒプリテック株)
- 委員 永田伸和 (日興リカ株)
- 委員 戸室輝之 (エヌ・イーケムキャット)
- 委員 中村清次郎 (太陽鉱工株)



広報委員会

【広報委員会】

- 委員長 尾沼 涼 (ジョンソン・マッセイ)
- 委員 藤井義一 (ブードケミー触媒株)
- 委員 形部泰孝(中外鉱業株)
- 委員 新井 智(日鉱金属株)
- 委員 渡部真治(川研ファインケミカル株)

【事務局】

- 専務理事 小林尚道(日本無機化学工業株 OB)

5. 事務局より(5月度の予定)(○は出勤日です)

曜日	月	火	水	木	金	土
1週	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	1
	定期総会	×	○	昭和の日	×	×
2週	3	4	5	6	7	8
	憲法記念日	みどりの日	こどもの日	○	○	×
3週	10	11	12	13	14	15
	×	○	×	×	○	×
4週	17	18	19	20	21	22
	×	○	×	△	運営委	×
5週	24	25	26	27	28	29
	×	○	○	×	○	△
6週	31	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5
	×	→	→	→	→	×

事務局延べ出勤予定：11日(○；終日、△；午前中)6月の第一週はお休みをいただく予定です。

6. OBからの近況通信

➤ 鶴岡 武さん(アジア物性材料協会会長)(元・会長)

南極探検記・南極と世界遺産イグアスの滝(パート2)

南極半島だけは地面が地上に出た部分が多いので至る所岩山を露出している。

ウシュアイアを出港后、直ちに全員救命胴衣を着、法に基づく避難訓練をする。この頃までは期待に胸をふくらませていたが夜の11時より世界に名高い大暴風圏に突入、船は大きく揺れ始めた。極地からの寒気団と北の暖気団がぶつかり、断続的に激しい風雨を伴う低気圧が発生する。吠える40度、狂う50度、叫ぶ60度と言って昔の船乗りにも恐れられているドレーク海峡である。皆事前に船酔い止めの薬を服用していたがまるで効かない、手摺に掴まらなければ歩けず、此の状態が35時間と続く。食事の取れない人多数、兎に角寝るだけ。クイズで氷山の見える時間当があるもそれどころに非ず、気圧図では二つの低気圧の間を航行中である。



三日目の朝になると海鳥が見え始め、急速に海は静かになる。放送で昨夜南極収束線を越え南極圏に入ったのを知らせ生きかえる。午後南極講座で上陸の仕方、防寒着(バルカ)の着方、ゴム長靴、セフティージャケット等の説明を受ける。南極には何も持ち込まず、又持ち帰らずの原則があり長靴洗いは厳しい注意あり。

トイレも無いので紙おむつを利用になる。持ち帰れるものは思い出と写真のみである。

翌日よいよ上陸である。朝五時外をみると南極半島の島々の間を走行している。朝食后八時カヤック(上陸用エンジン付ゴムボート)に乗り始めて上陸地シケルセンハーバーへ行く。沢山のペンギンが居り子育て中で雛鳥多し。周辺はペンギン糞の臭気著しく魚やオキアミが主食のため、漁師町の臭いがする。

オットセイも20~30頭おり皆寝ている。快晴で気温3℃と余り寒くない。原則として人はペンギンには5m、オットセイ、アザラシに15m以上近づかないよう指示を受ける。

特に子育て中のオットセイは気が荒く踏みつぶされるので逃げられる距離を持つ必要がある。どろどろの黒い海水は2℃、周辺は白一色の小高い山多く、種々の形の冰山が見られ、全く別世界の感あり。午後再度ボートに乗りクルージングすると、沢山の氷塊があり所々にカニクイアザラシが日向ぼっこをしており、どう猛な豹アザラシも居る。外気4℃まで上昇寒くない。鯨の親子が泳いでいる



のに会う。気温が上がるとオキアミが海面近くに集り、それを食す鯨も良く見かけられる。南極としてはめずらしい快晴、地上ではヨタヨタ歩きのペンギン達が群をなして捕食の為、猛烈なスピードで海中を泳ぎ廻っているのがデッキから見える。夜や

一杯やる。船はどんどん南極深く進む、翌日も快晴、全身体調良好、景勝地、オネルバーバ上陸計画も氷が多く反対から上り、小高い山を頂上まで登る。真っ青の空、白い山々、海には緑色に反射するたくさんの冰山、いくら長く見てもあきない景色である。午後は猫ハーバーに上陸、ペンギンの群れと仲良くする。今日は山登りを含め五時間上陸し、大汗をかき気持ちよく食事が美味なこと。船はゆっくりとルメール海峡を通過し、両側の白い山波と冰山を対批し絵になる環境である。相変わらず鯨の家族が船の周辺で泳ぎ廻り、



オキアミを食している。三日目も快晴なり、今日是一日3回上陸して、朝食前、ソデアックで別の陸に上陸すると、アデリーペンギンの群がおり数百羽居た。何度もペンギンに足を踏まれた。全く人間を無視して行動しており、時々泣いて何か合図を送っているらしい。ペンギン夫婦は共同で子育てをしており他の子供は追拂っていた。海沿いの岩肌中腹に鳥達が巣を造り雛鳥に餌を運び、又それを狙う海賊かもめもいる。極地の夏は短く、動物達は子育てに多忙を極める。気分が良く成ると南極講座の勉強会にも身が入る。船は南緯六十五度を超えて奥へと進む。百年昔、英国の探検家が来て観測をした石積みの風よけ壁もあり何も無い時代によく此の地に来たと驚く。四日目に英国の調査基地に行く、ここに切手とポストがあり仲間に南極から手紙を出した。三カ月位で着くらしいが、保証の限

りに非ず。このペンギンは特にづうづうしく、人の足に乗るはズボンに食い付く等ひどいものだ。



南極条約が無ければ蹴飛ばしてやりたい。沢山の氷山が特に集合しており、或る人の言葉を借りれば氷山の公園の由。海面に各種各様の氷山が青色に輝き、その美しさたるや幻想の世界である。2時間程クルージングして氷上のアザラシ、海賊カモメ、鯨等を見、最後に皇帝ペンギンに会えた。人間位の背丈があり、昭和基地方面に多いらしい。午後はひげペンギンと温泉地帯に向ったが急に雲行きが悪くなり、ドレーク海峡並みに荒れ出しその島の湾に入ったが、や

っと脱出、帰途に着いた。以前、嵐の中この湾に入り碇を下した所、昔の船が捨てた碇チェーンに巻き付き30時間動けなくなり、船員が決死隊となり、身体をロープで吊しバーナーで焼き切り、やっと脱出した事もあったらしい。案内人曰く、快晴と嵐を経験し本当の南極を皆様に理解して頂いたと思う。帰りもドレーク海峡で苦しみを三十時間も味い、やっとアルゼンチンの出発地ウシュアエアに着く。体長二米のアホウ鳥が船上を舞い無事帰還を祝ってくれてる。

嵐の地獄を経、南極の天国を見て来たのはあの世に行ったのと同じであり、当分あの世に行かずに済む?

ウシュアエア着后、フエゴ島ナショナルパーク観光をした。昔アルゼンチンの政治犯が送られてき、ここで重労働をさせられたらしい。犯人を運んだ「地の果て号」列車が今は代りに観光客を乗せている。全て終り再度三〇時間かけて帰国の途に着いた。グループの中で南極に魅せられ今回で三度目と言うマニアも居た。

旅行で問題になった点は、アルゼンチン国内便である。遅れて乗り替え時間が無く、飛行機を並べて駆け足で乗り替るも荷物が未着だったり、気流が悪く半回転し、墜落するかと思った。最後は国内便から国際便に乗り替えるのに十分間荷物を持って移動した折、出発時間に遅れ皆バラバラに個人で荷物を預けチェックインして搭乗した。百人余りのツアー客良く全員搭乗出来た。八人の添乗員も気を使っただけ。又一人、南極の岩で転び車椅子になった方もいた。

旅行を終えての感想としては、人の住めな無い環境で沢山の鳥を含む動物達に出会ったり、青白く輝く面白い形の氷山群、これ等と周辺の真白い丘陵とコバルトブルーの空が一体化し、絵の様な情景、悪魔の如きドレーク海峡等が強い印象です。自分も再訪問したいが兎に角遠い。又一六日は長い。尚、ペンギンは南半球の動物で北半球では動物圏以外に居ない事を記しておく。



町田市ぼたん園の休憩広場では、高齢者のカップルが大勢集まっていました。団塊の世代はリタイアし高齢化はすでに始まっている。

【文責：専務理事】